

介護老人保健施設 しおさい

症例概要 利用者氏名：F・R 様（80代 男性 要介護2）

利用期間：平成30年2月～現在

経過：30代から胃がん、十二指腸潰瘍の手術を受け、60代に僧帽弁置換術、小脳梗塞、70代で皮膚がんを発症するなどしてきたが、80歳ごろまでは車の運転もおこなっており、妻と死別後は1人で生活していた。80歳を過ぎてからは認知症状が強くなり、転倒を繰り返すようになった。心配した娘が面倒を見るために硬膜下血腫の手術を機に西伊豆に戻ったものの、もともと頑固な性格もあるためか良好なコミュニケーションがとれず、再び去ってしまった。その後も独居は続け、認知症状も進み内服管理、栄養管理もできず、夜間の徘徊、近所の人への言いがかりをつけるなどの迷惑行為が見られるようになり、地域からも施設への入所を強く希望されていた。そんな中、平成30年2月より、入所となる。

内 容

妻の死別後、お1人で暮らしていたF様は、80歳を過ぎた頃より認知症状が強まり、自宅で転倒を繰り返すようになりました。硬膜下血腫の手術を機に遠方で暮らしていた娘さんが西伊豆で暮らすことを決心し戻ってきてくれましたが、もともとの頑固な性格もあるためか良好なコミュニケーションがとれず、再びF様のもとを去ってしまいました。その後もF様は認知症状が進む中（HDS-R：12点）独居を続け、内服管理（PT-INR7.5↑）、栄養管理（3.5kg減/月）もできず、夜間の徘徊や、近所の人へ言いがかりをつける等の迷惑行為、知り合いを呼び「誰かがそこに寝ている」や「火をつけられた」などの言動が聞かれるようになり、地域からも施設への入所を強く希望されていました。そんな中、担当ケアマネージャーからの相談があり、2月にしおさいへ入所となりました。

入所当初は荒々しい言葉遣いや集団生活への不満、強い帰宅願望が随所に見られ、職員一同でF様への最善で適切なかかわり方を模索していました。そんな中、F様との何気ない会話の中で、1人で生きていくにあたり、お金に対する不安や、運転免許証を返納したことにより買い物難民になってしまう不安など、何とか1人で暮らしたいという思いが強いことがわかりました。ケアマネージャーや地域クリニックの看護師と話し合いを重ね、何とかご自宅としおさいを利用しながら地域で生活するスタイルを取れないか考え、実行していくこととしました。まず、ご本人に、自宅に帰るためにはしっかりと栄養をとり、ご自身で薬を管理していかなければならないことを理解していただき、食事を摂り、内服出来るよう支援し、3月には娘さんの協力のもと試験外泊も行えるようになりました。

現在、F様は入所中ではあるものの職員の業務を手伝おうとするなど4月末の退所に向け、お元気に生活されています。今後は体調に合わせ、在宅生活としおさいでの生活を円滑に繰り返していけるよう地域クリニックの医師・看護師、ケアマネージャーと綿密に情報共有をおこなっていきます。

今回F様に関わらせていただいたことで、職員一同、老健施設の本来の姿を含め、多くのことを学ぶことができたとともに、しおさいが地域の皆さんの「もうひとつのたのしい家」にまた一歩近づけたと感じることができました。